

「リレーションシップバンキングの機能強化計画」の進捗状況

① 平成15年4月から17年3月の全体的な進捗状況

- 当行は、「当該期間」に、政府系金融機関との連携強化や経営支援セミナーの実施、大規模商談会の開催など、取引先企業の本業支援、事業再生支援に積極的に取り組んでまいりました。

② 平成16年10月から17年3月までの進捗状況

- 九州広域企業再生ファンドへの参加、事業性ローン「アッドアルファ」、「ナイスアシスト」の取扱い開始やCLOの実行など、企業の再生支援、新しい中小企業金融への取組みを強化し、取引先企業の支援に取り組んでまいりました。

③ 計画の達成状況

- 九州広域企業再生ファンド活用先は1先で、CRDスコアリング等を活用した事業性ローン(SSL、アッドアルファ、ナイスアシスト等)は平成17年3月末で3,442件の30,441百万円となっています。CLOについては20先458百万円の取組みができました。

④ 計画の達成状況に対する分析・評価及び今後の課題

- 企業再生への取組みや取引先企業の経営改善支援策を実施したことなどにより、この2年間で、経営改善支援取組み先501先のうち82先の債務者区分がランクアップしました。
- 政府系金融機関との協調融資の実行や、中小企業再生支援協議会の活用による再生スキームの実行、事業性ローンの積極的な推進、CLOの実行、大規模商談会の継続開催等も含めて鑑みると、当行の地域密着型金融の取組みについては、中小企業の再生と地域経済の活性化に一定の役割を果たすことができたと考えています。

I 中小企業金融の再生に向けた取組み

1 創業・新事業 支援機能等の強化

- 融資審査態勢の強化と人材の育成
 - 目利き、審査能力向上研修会の開催、外部研修等、種々の研修会への派遣
- 産学官ネットワークの構築活用
 - 熊本大学「産学連携支援サービス」の相談取次ぎ
- 政府系金融機関との連携強化
 - 中小企業金融公庫、国民生活金融公庫、日本政策投資銀行、商工組合中央金庫および農林漁業金融公庫との業務連携等に関する覚書締結と協調融資の実行
- 中小企業支援センターの活用
 - 販路支援相談、融資相談の仲介を実施

2 取引先企業に対する 経営相談・支援機能の強化

- ビジネスマッチング情報の提供
 - 第10回商談会(インフォネットフェスティバル)開催、経営支援セミナー開催(年2回)
 - ISO等認証取得支援サービスセミナー開催、九州金融情報ネットワーク(QFネット)設立



インフォネットフェスティバル

- 経営改善支援取組み
 - 取組み先501先のうち82先の債務者区分が改善
- 中小企業支援スキルの向上
 - 第二地銀協会研修、行内ランクアップ研修、休日セミナーの開催、通信教育の受講



II 金融機関の健全性の確保、収益性の向上に向けた取組み

3 早期事業再生に向けた積極的取組み

- 研究担当者の任命と、今後の活用に向けた態勢の整備
 - DES、DIPファイナンス等の活用、RCC信託機能の活用、産業再生機構の活用
- 九州広域企業再生ファンドに参加し実績を計上
- 中小企業再生支援協議会を活用し再生スキームを実行

4 新しい中小企業金融への取組みの強化

- スコアリングを活用した事業性ローンの新たな商品取扱い
 - くもとファイト資金、アッドアルファ(保証協会)、ナイスアシスト(南九州税理士会)
- 中小企業金融公庫とのローン担保証券(CLO)の実行(20先458百万)

5 顧客への説明態勢の整備、相談・苦情処理機能の強化

- 説明義務を徹底する態勢の整備
 - 融資説明マニュアルの作成と研修、指導
 - 個人情報保護法施行に伴う規則の制定
- 苦情処理態勢の見直し
 - 行内LANによる報告システムの構築と営業店への還元

6 進捗状況の公表

- ホームページに平成15年度、16年度の進捗状況を掲載し公表
(URL <http://www.kf-bank.jp>)

1 資産査定、信用リスク管理の強化

- 償却・引当規則および自己査定基準の一部改正
- 金融検査マニュアル別冊中小企業融資編改訂版の理解の徹底
- 担保評価の担保評価センターへの移行完了

2 収益管理態勢の整備と収益力の向上

- 新格付システムでの格付付与、金利適性化に向けた格付の開示
- 債務者区分と整合的な内部格付構築

3 地域貢献に関する情報開示等

- 平成16年6月、平成16年12月発行のミニディスクロージャー誌
- 平成15年7月、平成16年7月発行のディスクロージャー誌
- ホームページ上(地域の皆さまとともに)に記事を掲載し情報を開示

